

総論

推進工事技士制度の目的と活用状況

大迫 健一

推進工事技士試験等委員長
(千葉工業大学 非常勤講師)



1. 推進工事技士制度の目的

全国の下水道の人口普及率も平成19年度末には71.7%となり管渠の総敷設延長は約40万kmになります。下水道の整備が全国的に取り組まれてきたのは昭和38年の第一次下水道整備五カ年計画以降ですので、それ以前に埋没された管渠は耐用年数の目安を超えつつあります。まだ下水の水洗化のサービスを受けていない人々には早期に下水道などの普及を促進し、併せて老朽化した施設の改良更新が必要であります。

このような状況のなかで当協会では社会の要請を適確に捉え対応できる技術と体制を整えていきます。いま推進技術に期待されていることは、

①経済性の追及

長距離推進および曲線推進への対応

②既設管の非開削更新

改築推進技術

③下水道管防食への対応

防食材料、複合管等

④地震への対応

耐震継ぎ手等、人孔の耐震性、液状化防止

であります。これに対応する技術や材料の進歩は急速です。

たとえば新潟など最近の地震被害事例（平成16年新潟県中越地震、同19年新潟県中越沖地震）を参照しますと下水道管渠の地盤の液状化によるものが多くみられます。そのなかで推進工法によって施工された路線や流動化処理土で埋め戻されたところの被害は比較的少ないのです。

また推進工法も長距離、曲線施工の事例が増え既設管を除去しながら新しい推進管に増径する改築推進工法の提案もあります。推進管の耐震性の向上や腐食性環境でも耐用年数を伸ばす材料の採用が増えております。このような推進技術や材料の日進月歩のなかで協会員の技術情報の交流を図り共通の目標を確認し必要であれば標準化も進めています。

推進工法には小口径から大中口径まで多様な工法が開発され経験を積んできました。その技術、技能は現場に携わる技術者により実践され推進管が敷設されます。従って現場で設計施工に関わる推進工事技術者の最新の技術情報をふまえた資質の維持向上が出来型の品質の確保には非常に重要

となります。

当協会では技術者の資質の維持向上をはかるために、平成4年より技能・技術審査制度として推進工事技士試験を実施してきました。その合格者で登録した者に対し、推進工事技士の資格を与えています。

同試験では土質、構造、水理などの基礎知識のほか施工計画や施工管理に必要な法令、規則、機械、電気など推進工法に関連するあらゆる分野から出題されます。四枝択一問題から成る学科試験と筆記問題を中心とした実地試験を通じ合格者が選抜されます。また登録した推進工事技士は5年毎に更新講習の受講を義務付け最新の法令技術情報や安全対策を習得させ資質の向上、保持に努めています。

2. 推進工事技士の活用に向けて

平成20年には17回日の推進工事技士試験を実施し1268名の受験者があり44%に当たる555名の合格者を発表しました。平成4年を初回とし、

延べ12,644人の合格者をだし、そのうち10,886人が推進工事技士として登録し全国で活躍しています。

ここ数年の間に発注者において一般競争入札制度の導入が進み技術力と入札価格を統合して落札者を決める総合評価方式の採用が国や自治体で推奨されています。その際、評価項目のなかで施工計画や施工成績のほか担当予定技術者の資格経験は重要事項です。

特に推進工事は専門の技術が大きな役割をはたしますので推進工事技士など客観的な資格は評価されます。推進工事技士を有効に活用するには発注者による条件明示が重要であり施工計画書における協力専門業者の資格技術者の確認が必要です。

当協会としては、この推進工事技士試験を発注者である国や自治体にとり信頼に足る制度として育成し、この制度に係る推進工事技士の資質の向上を図るよう環境を整えていきます。今後とも多様な施工条件にも対応可能な推進技術の研究開発に努め、その技術を現場に実現する推進工事技士の信頼度を高めていきます。

会員動向

第25回 定時総会・懇親会を開催

..... 全国 W ジョイント管協会

推進管の高水密性を確保するために開発されたWジョイント管の普及促進を図る全国Wジョイント管協会(賛助会員、会長:藤村範夫氏)は、7月2日、東京千代田区のホテルメトロポリタンエドモントにおいて、第25回定時総会と懇親会を開催した。

総会議長を務めた藤村会長は、総会に先立って「公共投資の縮減が続く中、お陰様でWジョイント管は、ここ4年間出荷量を増やし続けています。これは、Wジョイント管の持つ優れた特性がユーザの皆様にご理解いただけたことと、会員各社の普及に向けた努力の賜物と思います。今年度は、更に協会のホームページの拡充等を図ってPRに力を入れて行きたい」と抱負を語った。

今年度から、役員のうち副会長を2名置くことが承認され、安田卓見氏(栗本コンクリート工業



総会挨拶に立つ
藤村範夫会長

▲ 総会の模様

(株)代表取締役社長)と仙波不二夫氏(株)ハネックス代表取締役社長)の就任が決まった。